

中東地域イスラム都市・集落のセンター概念の形態学的研究

都市広場研究会
代表 芦川 智

1. はじめに

都市広場研究会では、都市の広場についての研究を継続的に行っているが、イスラムの都市に広場がどのような形態で存在しているかが課題であった。イスラム都市の旧市街は、城壁で囲われ細街路で埋め尽くされ、中心的施設としてのモスクが、その中に分散的に配置されている。広場的なオープンスペースとしてあるのは、交易のための空間であるが、それは城門近くにあり、メディナと呼ばれる居住領域にはまとまったオープンスペースはない場合が多い。そこで、イスラム都市あるいは集落の中で広場概念に置き換える概念をセンター概念とし、その概念がどのように存在するかを考えてゆこうとする事をテーマとして掲げた。イスラム都市と一括して呼ぶ事にはいささか危険が伴う。そこで、まず第1にイスラム都市の全体像を把握し、その中で個別の都市形態の概念を追ってゆく事とする。

この研究は、原則として、都市・集落の実態調査を基本としているが、今回はその実態調査対象国として、トルコとイエメンを考えていた。トルコについての調査はある程度行う事が出来たが、イエメンについては、入国時に内戦が勃発してしまい、思うような調査が出来なかった事は残念である。今後、機会があり次第再度調査を試みたいと考えている。

2. 中東イスラム都市・集落の概要

2.1 中東イスラム都市の概念

まず第1に中東の概念規定が必要であるが、中東自体の言葉は、近東、極東の中間地帯として作られた言葉で、狭い意味ではイラン・イラク・アフガニスタンを指すが、一般的な規定として、バルカン諸国を除く近東の領域で、アフガニスタン以西の西南アジアとアフリカ北東部（リビアを含む場合もある）としている。^{注1)}しかし、中東とは、一般的には政治的概念であり、イスラム諸国が多い事から、イスラム圏と捉える場合もある。また、風土的に見れば圧倒的に乾燥地帯である事より、中東と乾燥地帯とイスラムを重ねて捉える事も出来るであろう。

イスラム教は、砂漠に生まれた宗教であるといわれる。

2.2でイスラム発展の圏域と風土との関係を捉えている

が、それによれば、現在でも広大なイスラム教圏域の中で、6割が、乾燥地帯である事よりもこの事は明白である。そこで、この論の中東イスラム都市・集落とは広い圏域の定義であり、しかも乾燥地帯と重ね合わせられる北アフリカから、アフガニスタンに至るイスラム圏として捉えてゆく事とする。

2.2 風土的基盤と集落の構造

砂漠に生まれた宗教としてのイスラム教が、宗教の旗の下に圏域を拡大していった状況を図に示すが、7世紀から15世紀にかけて極めて短期間に広大な圏域へと拡大していったイスラム帝国の状況であるが、この圏域拡大と、風土気候帯を重ねて分布状況を捉えていったものが図2-1~4、表2-1である。^{注2)}これに示されるごとく、8世紀のウマイヤ朝時代には、90パーセント以上が乾燥地帯である事が分かるし、世界の3大宗教の1つとして安定圏域へと達した現在でも6割が乾燥地帯である事より、イスラム諸国と砂漠との関係は密接であると認識出来る。

気候は、人々の生活に様々な影響を与える。住居に関しては言うまでもなく、集落や都市の構造に関してもその影響は大きい。また、表2-1には各時代において、イスラム圏がどのような気候区分にわたり広がってきたかを、各気候区分の面積比を出して整理したものを載せる。^{注3)}

本報告の中心となるイスラム圏の都市については、その初期の段階から砂漠気候の地域を中心に発展してきた事が分かる。まず初期の時代として、ムハンマド時代（7世紀前半）を挙げたが（図2-1）、そこではすべてが乾燥気候、その中でも砂漠気候は9割を占める。次にイスラム世界がその版図を拡大した時代として、ウマイヤ朝の版図を挙げた。（図2-2）領域が広がるとともに様々な気候が存するようになるが、やはりその9割が乾燥気候、砂漠気候は5割以上を占める。オスマン帝国（16世紀）の版図を見ると（図2-3）、乾燥気候は7割を占め、今世紀後半におけるイスラム圏についても、やはり乾燥気候が多く6割、砂漠気候が4割を占める。^{注4)}

2.3 都市と集落の構造

イスラム都市の一般的な基本的構造が文献32)に示されている。それによれば、外来者にとって非常に分かりづらい迷路状のイスラム都市も、はっきりとした規則性に則った町づくりを行っている事が示されている。

その1つが、道路システムである。つまり、大通り(公道)と袋小路(近隣の私道)の区別を行い、大通りは、全住民に開放されているが、袋小路はそれに接する住民の共同所有を認める等、近隣の形成を基礎においた規則を作っているし、住居を連続して建設する形式のため、隣人とのプライバシーについての規定を厳しく規定し、その結果から、のぞき込みが回避される中庭形式の住居が生まれた。つまり、外に対しては閉じる住居の形式が一般化したとしている。戸境壁を共有しながら、住居が増殖して成長してゆくメディナの形式を成立させるためには、特に環境条件を整える規約を事細かく作っていた事が示されている。

また、都市形成に当たって、公共的な施設の建設について、イスラム独特の制度を作っていた。それがワクフ制度である。これは、土地や建物の無償提供の制度であり、これがイスラムの都市づくりについての知恵であったようである。このワクフ制度については、文献3)に示されている。

都市自体の形成についてはハーラと呼ばれる街区が単位となって近隣の単位を構成している³¹⁾。この中では中通り(ダルブ)から分かれた路地(アトファ)や袋小路(ズカーク)に分かれ、外来者にとっては迷路状に続いている。このハーラの単位の中に、必要なモスク、浴場(ハンマーム)、市場(スーク)等が配置されている。

都市・集落の構成要素としては、居住域としてのメディナ、防衛拠点としてのカスバ、スール(市壁)、バーク(城門)、ブルジュ(望楼)、シャーリー(通り)とタリーク・ナーフィズ(通り抜け道)、バトハ(交差点広場)、ムッサラー(祈りの広場)、マクバラ(墓地)、ハザーン(貯水施設)、ハンダク(市壁周囲の堀)、マッハラ(社会文化的・部族的背景の居住地)等を挙げる事が出来る³²⁾。これは、都市チュニス为例にとって整理したものであるが、イスラム都市の一般的な構造として考えて良いものであろう。

特に都市・集落にとってのセンター要素と考えられるものとして、大モスク・スーク・マドラサ(11世紀以降建設され始める)・ハンマーム・モスク等が挙げられる。このうち大モスクとは、金曜モスクとかウル・ジャーミー等と呼ばれ、その都市に1つ配置され、その都市の宗教行事の中心となるものであると同時に、政府の布告がなされ、裁判の法廷も開かれ、信者にとっての宗教教育の場であるため、都市の情報交換と社交の場でもあった。(イスラム事典, 平凡社) また、スーク(市場のアラビ



図2-1 ムハンマドの時代(7世紀)



図2-2 ウマイヤ朝時代(8世紀)

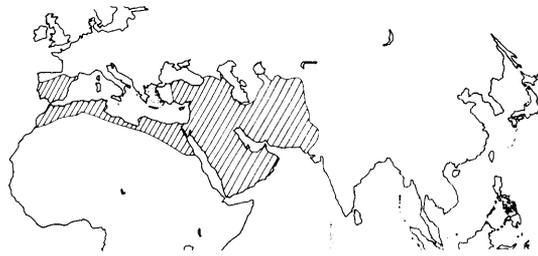


図2-3 オスマン帝国(最大版図, 16世紀)

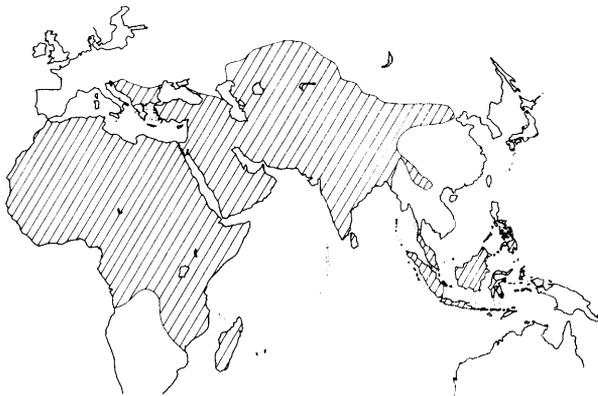


図2-4 イスラム世界(1984年)

表2-1 気候区分面積比(%, 但し1%未満は省略)

	熱帯多雨気候		乾燥気候		温帯多雨気候		冷帯気候		寒帯気候		高地気候	
	熱帯雨林気候	熱帯季風気候	草原または半乾燥気候	砂漠または乾燥気候	地中海気候または亜熱帯多雨気候	亜熱帯多雨気候	西海岸気候	温帯大陸性種夏気候	温帯大陸性冷夏気候	亜極地気候		ツンドラ気候
ムハンマド時代			11	89								
ウマイヤ朝時代			35	56	7							2
オスマン帝国			20	51	17			4	6	1		1
イスラム世界	8	15	21	39	4	3			1			8

ア語) (ペルシャ語ではバザール)は、イスラム都市にとって経済基盤を確保するために欠くべからざるものであった。スークの形式は、多様でアーケード形式のもの、単に通りの形状のもの、建築化されたもの、広場に仮設的に建つものなどである。そして、スークに付属し、ハーン(もともとは宿泊施設であった)や、ベデステン(スークの中心)等が配置されている。中心的施設として、そのほかにマドラサ(神学校)・ハンマーム(浴場)がある。特に、マドラサ・モスク・病院・公衆浴場等を複合的にまとめて構成し、キュリエと呼び、都市の核的空間となっていた事は重要である。イスタンブールのスレイマニエのキュリエは、規模的にも、複合度の上でも特筆に値する。

3. イスラム都市・集落の形態

イスラム都市・集落を対象として、イスラムとしての特質を捉えてゆくために、広い意味での中東地域のイスラム都市の原型を探り、その構成原理を捉えてゆきたい。それ故、現在では、ほとんどの都市が、近代化され、現代都市として生まれ変わっているが、その中で旧市街として残されている部分についての考察を行ってゆく。そのために、都市図を扱う事として、本来のイスラム都市が扱えるように出来る限り古い地図を対象とし、その構成を見てゆく事としている。

3.1 イスラム都市・集落リスト (No.1~No.6の別図参照)

対象とした30の都市・集落は、アフガニスタンからモロッコまでのイスラム領域の都市としている。整理項目は、その都市の国・地域・風土、旧市街の道路配列図、現在の都市における旧市街地区の配置図、旧市街の規模、旧市街の主要施設配列図、都市の概説と引用文献である。

3.2 都市の概要

30都市は、その規模・歴史・地域等異なったものであり、同列に比較する事は難しい。しかし、その中で、全体を概観したときに言える事は都市発展の形態に幾つかのタイプが読み取れる事であろう。それを以下の4つのタイプとして挙げる。つまり、①イスラム都市として建設された独自タイプ、②都市の原型に寄生するタイプ、③原型の

都市形態を守って発展するタイプ、④原型の都市形式を打ち破って発展するタイプの4タイプである。①のタイプの代表的なものは、マグレブ都市のアルジェ・チュニス・カイラワーン等である。②のタイプの代表はエディルネ・イスタンブール等であり、③のタイプの代表はダマスクス・フェス・イスファハン等である。④のタイプは、カイセリ等である。

4. 中東イスラム都市・集落の類型

30都市の概要を捉えるために、幾つかの尺度を用いてその特性を把握し、それによって類型化の方向を探ってゆく。あわせて、都市・集落のセンター概念へとつなげてゆく事としている。

4.1 都市・集落の特徴を記述する項目

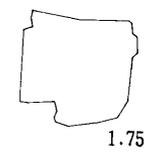
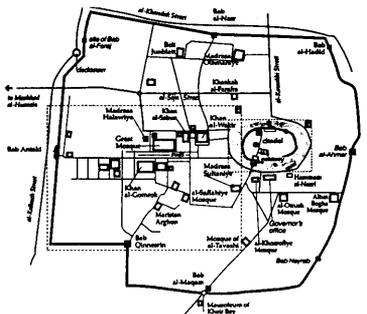
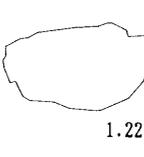
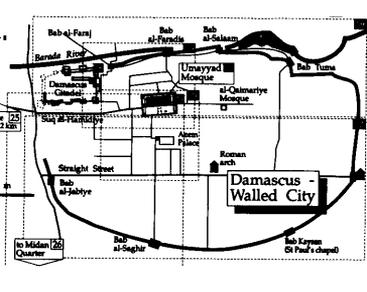
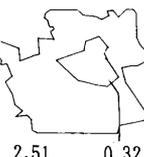
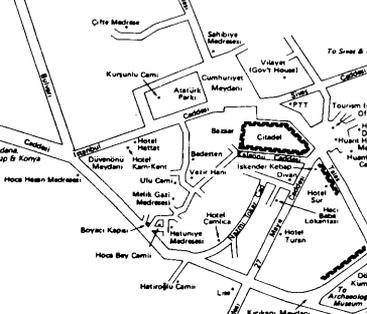
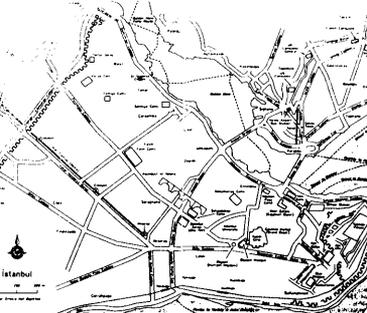
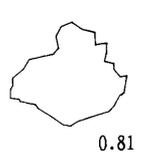
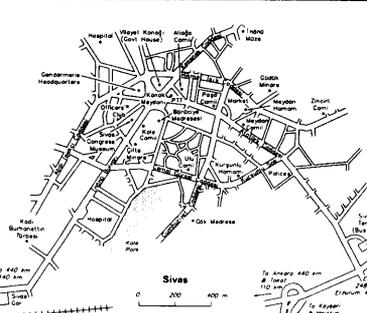
今回の報告は、都市図をもとにしてそこから読み取れる内容をもとに分析する事としているが、都市・集落の特徴を記述する内容として以下の6項目としている。すなわち、①都市・集落の境界の状況、②旧市街・新市街等のゾーン分けの状況、③求心的な要素の状況、④旧市街の中でのゾーン区別の状況、⑤道路パターンの状況、⑥空間のヒエラルキーの状況、の6項目である。表4-1は30都市について上記6項目がどのように評価されるかを整理したものである。

表4-1 都市・集落の空間特性評価

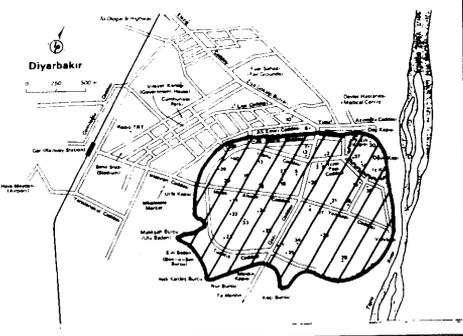
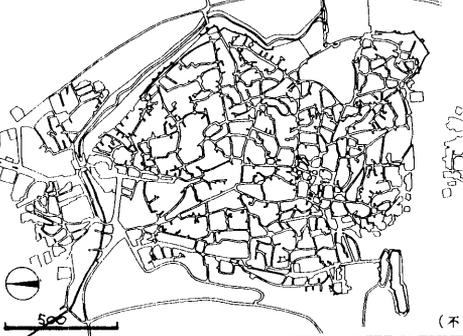
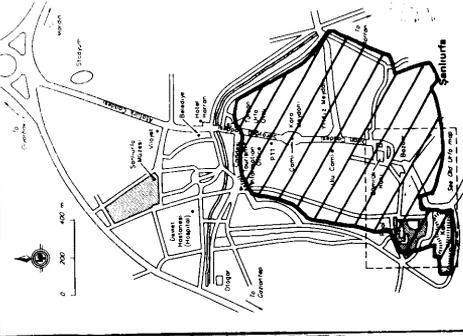
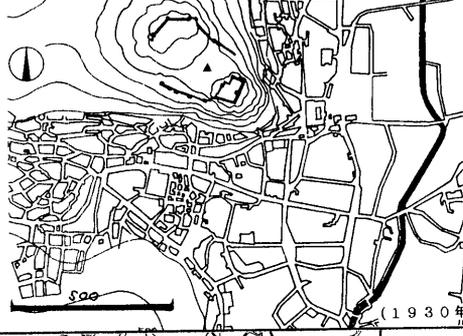
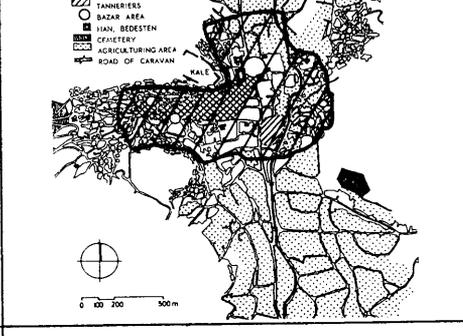
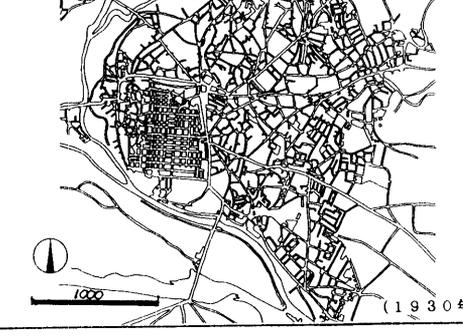
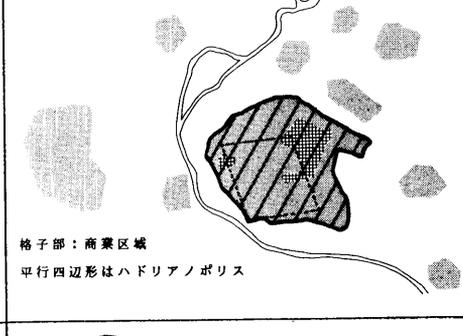
都市図の空間特性を記述するためのリスト	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
都市の名称	アレクサンドリア	カイセリ	イスタンブール	シバ	ディヤルバクル	ウルファ	トカト	エディルネ	ナールマン	ケルマーン	テヘラン	イスファハン	マシュハド	アルジェ	マルジュ	ガルダヤ	ペニシヤ	スエズ	カイタワーン	カイロ	ハラット	バグダッド	モスル	サマア	シバ	タンジール	フェス	マラケシュ				
1 境界	全体が城壁で囲われている	○	○	○	○							○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	城壁は部分的あるいはないが、境界は明確						○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	城壁は部分的あるいはなく、境界が不明確		○	○	○	○	○	○																								
2 新旧	新市街と旧市街が明確に区別されている		○			○	○							○	○	○	○	○	○	○	○					○	○	○	○	○		
	新市街と旧市街が明確に区別されていない	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○		○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3 求心性	旧市街部分の求心性の要素が単一的															○	○															
	旧市街部分の求心性の要素が複数で均質的			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	旧市街部分の求心性の要素が複数で階層的	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
4 領域区分	旧市街の区分領域はない				○	○			○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	旧市街に機能区分できる領域区分あり	○	○	○	○	○	○				○	○								○											○	
	旧市街に発露形として領域区分あり									○				○							○	○									○	
5 道路構造	道路パターンは均質である			○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	道路パターンに骨組みとなる道路がある	○	○	○	○	○								○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	道路パターンに異なった数種の構造が連続できる	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6 空間階層	空間にヒエラルキーがある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	空間にヒエラルキーがない										○																					
	空間のヒエラルキーは不明快		○				○								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

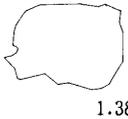
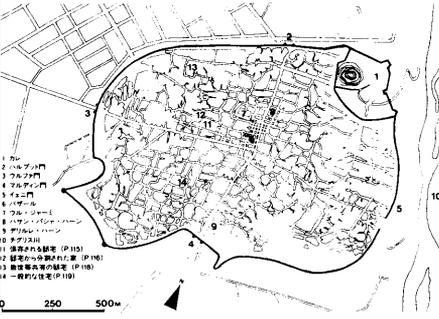
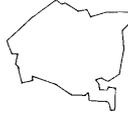
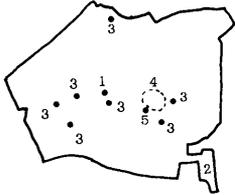
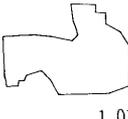
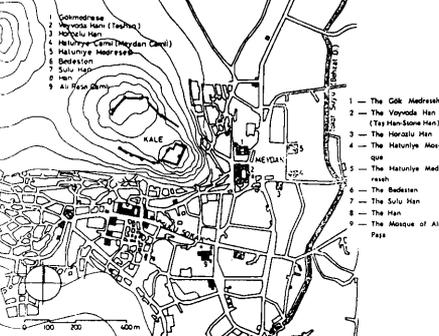
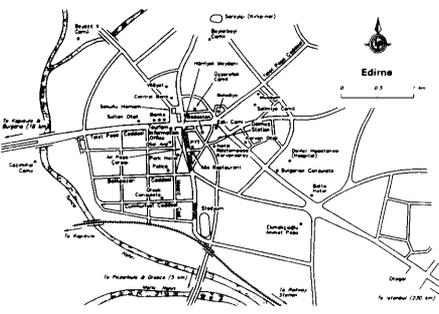
イスラム都市・集落リスト

CODE	国・地域・都市	都市形態図(旧市街) (西暦年代)	現在の都市における位置を示す図
SYR-1	<p>国: SYRIA</p> <p>地域: 北シリア クワイク川流域</p> <p>都市(集落): ALEPPO (アレッポ)</p> <p>気候風土: 草原または 半乾燥気候</p>	<p>(1930年代)</p>	
SYR-2	<p>国: SYRIA</p> <p>地域: シリア内陸部 バラダー川流域</p> <p>都市(集落): DAMASCUS (ダマスカス)</p> <p>気候風土: 草原または 半乾燥気候</p>	<p>(20世紀)</p>	
TUR-1	<p>国: TURKEY</p> <p>地域: トルコ中央部 東部アナトリア</p> <p>都市(集落): KAYSERI (カイセリ)</p> <p>気候風土: 草原または 半乾燥気候</p>	<p>(1940年代)</p>	
TUR-2	<p>国: TURKEY</p> <p>地域: ボスフォラス海 峡地域</p> <p>都市(集落): ISTANBUL (イスタンブール)</p> <p>気候風土: 地中海気候 または亜熱帯多雨気 候</p>	<p>(1855~63)</p>	
TUR-3	<p>国: TURKEY</p> <p>地域: トルコ東部 東部アナトリア</p> <p>都市(集落): SIVAS (シバス)</p> <p>気候風土: 草原または半乾燥気 候帯</p>	<p>(1920年代)</p>	

旧市街規模	主要構成要素配列図(旧市街部)	文献	備考
<p>単位 平方キロメートル</p>  <p>1.75</p>		<p>文献 1) 文献 2) 文献 6) 文献 7) 文献 9) 文献 1 1) 文献 1 7) 文献 3 7)</p>	<p>シリア第2の都市。紀元前3000年アモル王国の首都。紀元前2000年にヒッタイトに占領。以降アッシリア、十字軍、モンゴル等に攻撃された。オリエントの北の最重要拠点であった。都市の特徴は東部に聳える城塞とその麓から西に延びるスーク(市場)。シタデル(城塞)は紀元前1000年頃のヒッタイトのアクロポリスである。その後神殿から要塞に変わる。城壁はマムルーク期で建設(1428)現在の姿が出来る。城壁は部分的に残っている。最盛期はオスマン朝時代で東西交易の中継地として栄える。</p>
 <p>1.22</p>		<p>文献 1) 文献 2) 文献 6) 文献 7) 文献 9) 文献 1 1) 文献 1 7) 文献 3 0) 文献 3 7)</p>	<p>シリア・アラブ共和国の首都。紀元前2000年から灌漑施設を持つ農耕地。紀元後11世紀アラム人の首都。紀元前4世紀以降ギリシャの支配下になり紀元前1世紀以降ローマの支配下となる。この現在の東西1.5km南北0.75kmの城壁、東西の市門、中央の神殿とアゴラ、城塞、地下水道網の骨格が出来る。ビザンチンの支配ののち、635年イスラム化。12世紀以降十字軍時代にはジハード(聖戦)の拠点となる。16世紀はじめには31のジャーミー、1000のモスク、159のマドラサ、76のスーフイーの修道場を擁し、文化の中心都市となった。この時期にイスラム的道路網が完成した。</p>
 <p>2.51 0.32</p>		<p>文献 2) 文献 6) 文献 1 0) 文献 1 6) 文献 3 5) 文献 4 0) 文献 4 1)</p>	<p>ヒッタイトの首都が近くに建設された地で、初期の集落が造られたのが始まり。ローマ帝国時代ティベリウス皇帝により名称がつけられた。(カエセリア:皇帝の町) 初期キリスト教時代聖バジルの生誕地として有名。そののち600年アラブの進入によりキリスト教の歴史は終わる。セルジুক্তルコ、モンゴルの支配、オスマントルコの一時的支配、マムルーク朝の時期を経由して1515年再度オスマントルコが握り、それ以降最盛期を迎える。現在中部アナトリア最大の商業都市。シタデルは500年ユストゥニアヌス帝が建設。セルジুক্ত朝時に拡張修復をし1486年オスマントルコ時代に都市全体の城壁を完成。</p>
 <p>14.18</p>		<p>文献 1) 文献 2) 文献 6) 文献 1 0) 文献 1 6) 文献 3 5) 文献 4 0) 文献 4 1)</p>	<p>トルコ共和国第1の都市。紀元前3000年末からトラキア人の集落が建設される。紀元前7世紀ギリシャの植民地が建設される。ローマ時代東方貿易の拠点となる。当時ビザンチオンと呼ばれる。コンスタンチヌス帝にちなんでコンスタンチノープルと改称。1453年オスマントルコに占領される。征服後イスラム的な都市空間につくり替えられる。オスマントルコの隆盛と共にイスタンブール(コンスタンチノープルのトルコ語発音)は東地中海世界の経済の拠点都市となった。城壁は400年頃から建設され、1200年頃外周を閉じるようになる。現在の残る形態はおおむねビザンチン時代のもの。</p>
 <p>0.81</p>		<p>文献 2) 文献 6) 文献 1 0) 文献 1 6) 文献 3 5) 文献 4 1)</p>	<p>エルズルムと同様交通の要衝として栄えた。市域は、直径約1kmの城壁で囲われていたが、現在は、残っていない。都市の中心にコナク広場が位置する。その続きに、カレ(城)が配置され、モスク1棟、メドレッセ2棟、ダーリッシュファ(病院)1棟があり、市の文化・福祉のセンターとして機能している。これは、キュリエと呼ばれるセンター施設要素の前身となるものである。カレはもう1つあり、軍事的な城塞の機能を有するものであるが、現在は公園となっている。</p>

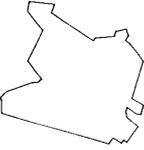
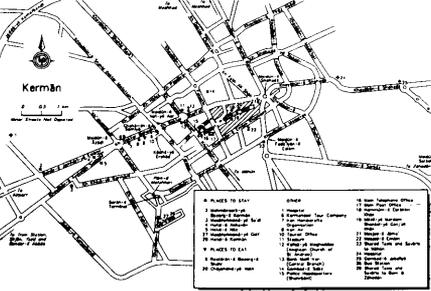
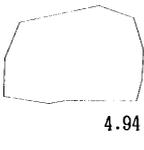
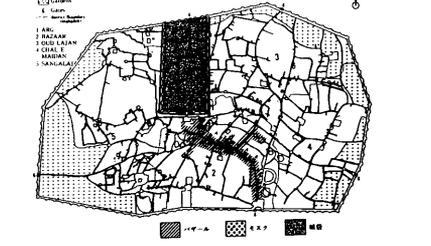
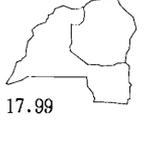
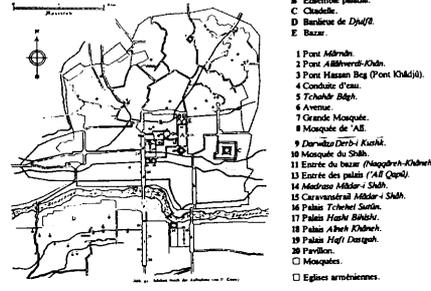
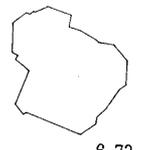
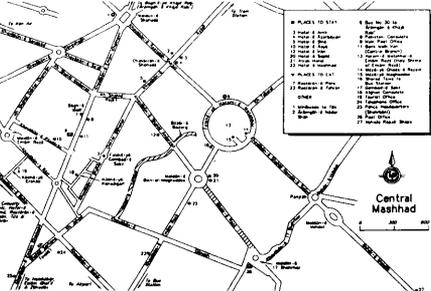
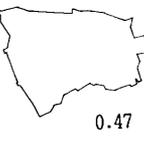
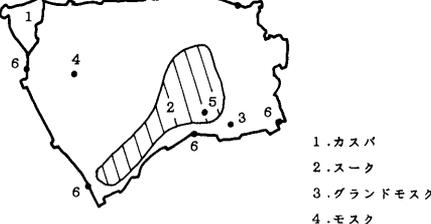
イスラム都市・集落リスト

CODE	国・地域・都市	都市形態図(旧市街) (西暦年代)	現在の都市における位置を示す図
TUR-4	<p>国: TURKEY</p> <p>地域: トルコ東部 東部アナトリア</p> <p>都市(集落): DIYARBAKIR (ディヤルバクル)</p> <p>気候風土: 草原または 半乾燥気候</p>	 <p>(1940年代)</p>	
TUR-5	<p>国: TURKEY</p> <p>地域: トルコ東部 東部アナトリア</p> <p>都市(集落): URFA (ウルファ)</p> <p>気候風土: 草原または 半乾燥気候</p>	 <p>(不明)</p>	
TUR-6	<p>国: TURKEY</p> <p>地域: トルコ東部内陸 中部アナトリア</p> <p>都市(集落): TOKAT (トカト)</p> <p>気候風土: 草原または 半乾燥気候</p>	 <p>(1930年代)</p>	
TUR-7	<p>国: TURKEY</p> <p>地域: トルコ西北部 ブルガリア国境</p> <p>都市(集落): EDIRNE (エディルネ)</p> <p>気候風土: 地中海気候 または亜熱帯多雨 気候</p>	 <p>(1930年代)</p>	 <p>格子部: 商業区域 平行四辺形はハドリアノポリス</p>
IRN-1	<p>国: IRAN</p> <p>地域: イラン高原中央 部ザグロス山脈東麓</p> <p>都市(集落): NAIN (ナーイーン)</p> <p>気候風土: 砂漠または 乾燥気候</p>	 <p>(1950年代)</p>	 <p>全域に及ぶ</p>

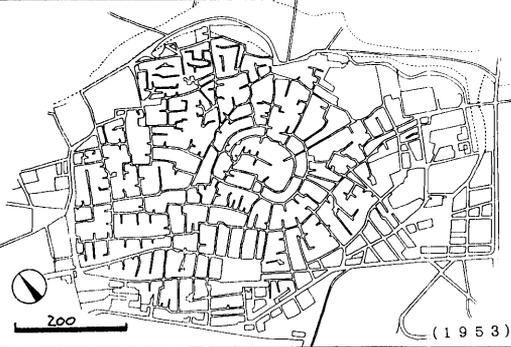
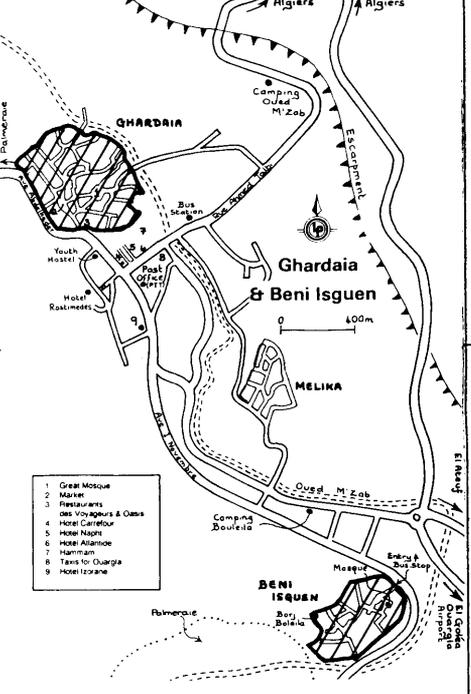
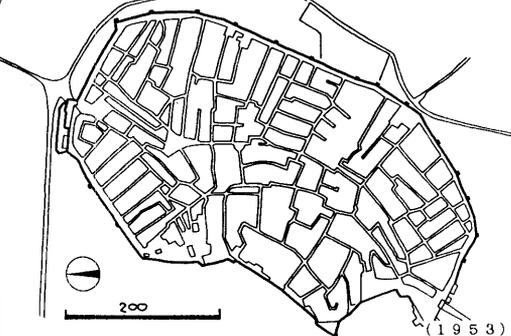
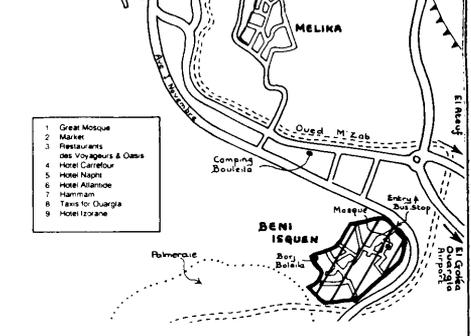
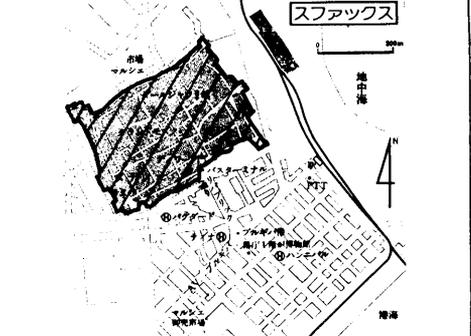
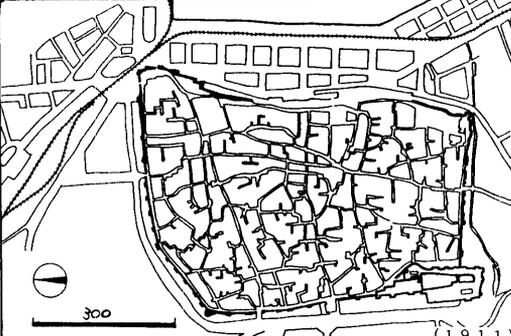
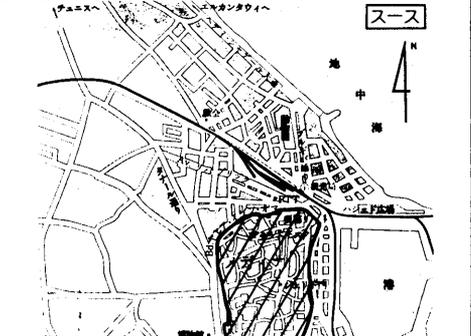
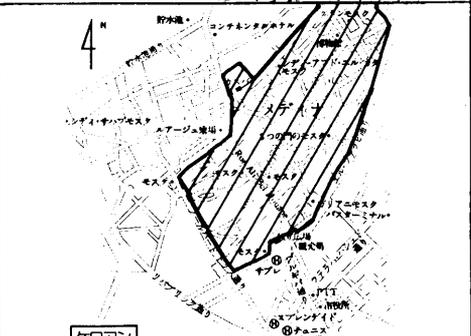
旧市街規模	主要構成要素配列図(旧市街部)	文献	備考
<p>面積 平方1027-13</p>  <p>1.38</p>		<p>文献 2) 文献 6) 文献 1 0) 文献 1 6) 文献 3 5) 文献 4 1)</p>	<p>ティグリス川上流に位置し、シルクロードの中継地として栄えた。ローマ時代にはアマダと呼ばれた。4、5世紀のビザンチン時代の城壁で町は囲われており当時の姿を良く残している。城壁の長さは5.5kmあり、4つの門が配置されている。道路構造は南北の軸状のメインストリートとそれに直交する道が都市の骨格をつくっている。2つが交差する部分にバザールやウルジャーミーが配置され、センター機能となっている。</p>
 <p>1.27</p>	 <p>1.ウルジャーミー 2.カーレ 3.モスク 4.カバードバザール 5.ハン</p>	<p>文献 2) 文献 6) 文献 1 0) 文献 1 6) 文献 3 5) 文献 4 1)</p>	<p>シリアとの国境に近いウルファ県の県都。アナトリアとメソポタミア両地方を結ぶ交通路として栄え、東西の係争地となった。現在はトルコの南東開発の拠点として重要な都市となっている。イスラム以前から大都市として栄え、城壁で囲われ高台にはカーレ(城塞)があったが、これがイスラム都市にも継承された。中央にウルジャーミーを配置しているが、バザールとは離れている。</p>
 <p>1.01</p>		<p>文献 2) 文献 6) 文献 1 0) 文献 1 6) 文献 3 5)</p>	<p>都市の歴史は紀元前3000年に遡る。ヒッタイトに始まり、アレクサンダー大王、ペルシャ、ローマ、ビザンチン帝国、セルジュクトルコ、モンゴル、オスマントルコ等14の段階を経てきた。セルジュクトルコの時代には、アナトリアで6番目の大都市となった。オスマントルコが1402年に支配し、重要な経済中心都市として位置づけるようになった。都市の中心は巨大なキュンフリエット・アラニーと呼ばれる広場である。丘の上には、カーレがある。その下にバザールと古いオスマンスタイルの住居が並ぶ。</p>
 <p>0.47 3.95</p>		<p>文献 2) 文献 6) 文献 1 0) 文献 1 6) 文献 3 5) 文献 4 1)</p>	<p>ブルガリア国境に近い当市は、1362年以降ブルガに次いでオスマントルコ2番目の都市となった。市街地の中にハドリアノポリスと呼ばれる平行四辺形の城壁に囲まれた部分を内包し、これを中心に全体が構成されている。中心部には古代以来の格子状の道路パターンがきれいに残っている。この部分は、かつて城壁で囲われていたが、この城壁は現在は存在していない。都市全体を囲う城壁は存在しなかった。平行四辺形の北東部の隅にモスク、ベデステン、アラスタ、ハン、ハンマーム等の中心施設が配置されている。</p>
 <p>0.39</p>	 <p>1.アルク(城)跡 2.モスク 3.廟 4.バザール 5.キャラバンサライ 6.耕地</p>	<p>文献 3 1)</p>	<p>イラン高原中央部の小都市。人口5000人程度のオアシス都市。住居はほとんど中庭形式の日干し煉瓦製の住居。2つのモスクと4つの廟が分散配置され、市街地の骨格をつくるのがバザールである。中心部にアルクと呼ばれる城塞が残っているが、廃墟化している。</p>

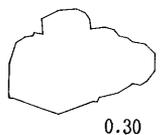
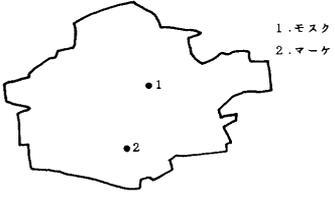
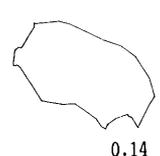
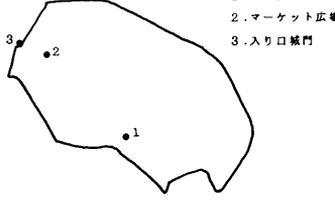
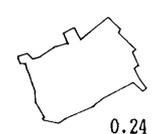
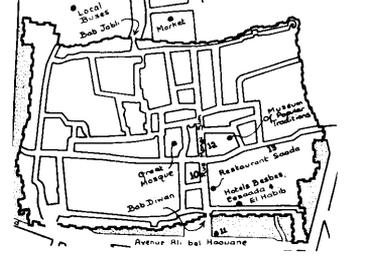
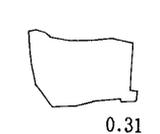
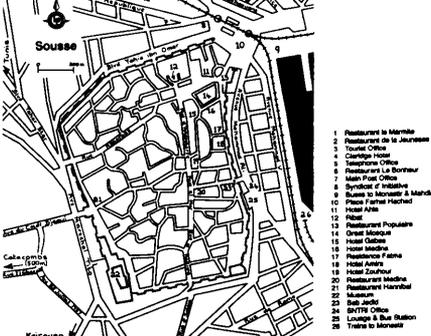
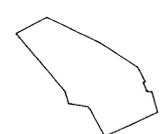
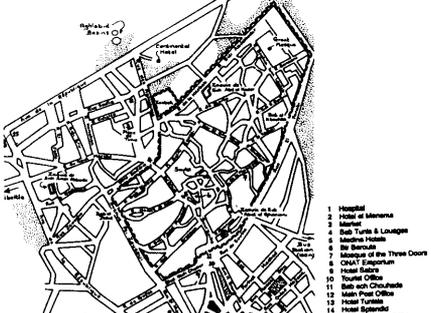
イスラム都市・集落リスト

CODE	国・地域・都市	都市形態図(旧市街) (西暦年代)	現在の都市における位置を示す図
IRN-2	<p>国: IRAN</p> <p>地域: イラン南東部内陸部</p> <p>都市(集落): KERMAN (ケルマーン)</p> <p>気候風土: 砂漠または乾燥気候</p>	<p>(1950年代)</p>	
IRN-3	<p>国: IRAN</p> <p>地域: イラン高原北端エルボルズ山脈南麓</p> <p>都市(集落): TEHERAN (テヘラン)</p> <p>気候風土: 草原または半乾燥気候</p>	<p>(19世紀)</p>	
IRN-4	<p>国: IRAN</p> <p>地域: イラン高原中央部</p> <p>都市(集落): ESFAHAN (イスファハン)</p> <p>気候風土: 砂漠または乾燥気候</p>	<p>(18世紀)</p>	
IRN-5	<p>国: IRAN</p> <p>地域: イラン北東部ホラーサーン州</p> <p>都市(集落): MASHHAD (マシュハド)</p> <p>気候風土: 草原または半乾燥気候</p>	<p>(現在)</p>	
ALG-2	<p>国: ALGERIA</p> <p>地域: アルジェリア北部。地中海沿岸地域</p> <p>都市(集落): ALGER (アルジェ)</p> <p>気候風土: 地中海気候または亜熱帯多雨気候</p>	<p>(不明)</p>	

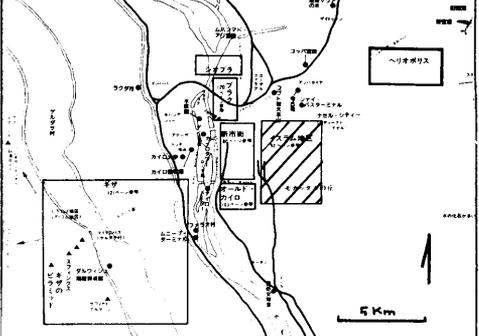
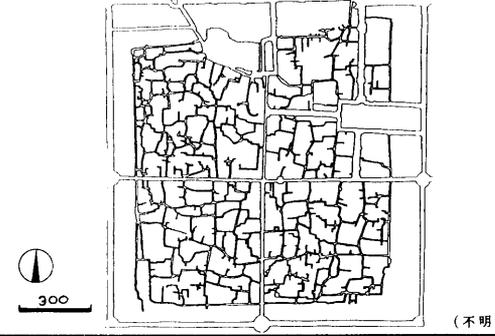
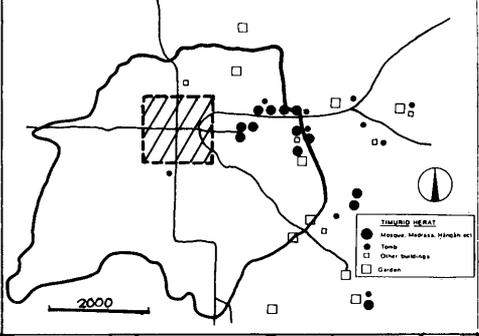
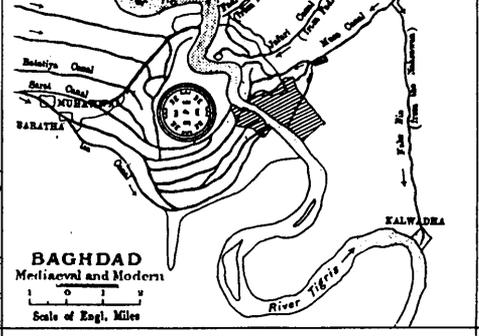
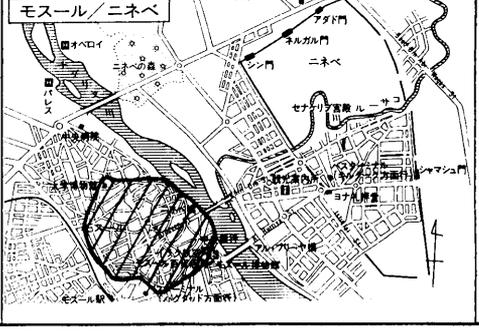
旧市街規模	主要構成要素配列図(旧市街部)	文献	備考
<p>単位 平方キロメートル</p>  <p>4.30</p>		<p>文献 2) 文献 1 1) 文献 3 1)</p>	<p>イラン高原の標準的なオアシス都市(約3.7km²)。第2次大戦後都市改造が行われ、イスラム独自の細街路構成の空間に骨格をなす大通りが貫き中央に円形のメイダン(広場)とロータリーを配置して構造化を図っている。細街路の構成の中で骨格を構成しているのは軸状のバザール空間である。</p>
 <p>4.94</p>		<p>文献 2) 文献 3) 文献 1 1)</p>	<p>イラン・イスラム共和国の首都。南方のレイ郊外の1寒村であったが、レイがモンゴルに破壊された後に代わって成長した。カスピ海南岸地方とイラン高原の中間に位置するため戦略上の拠点として重要視されていた。16世紀中期サファビー朝期に城塞が築かれた。18世紀末カジャール朝期に首都に定められてから急速に発展したが、経済活動の中心的地位はタブリーズ等に譲っていた。パーレビー朝に入って、名実共に経済・政治・文化のイラン第1の都市へ成長した。</p>
 <p>7.12 17.99</p>		<p>文献 2) 文献 5) 文献 6) 文献 1 1)</p>	<p>都市の起源は紀元前6世紀に遡る。7世紀にアラブの支配下に入ったのち10世紀に現在の市街地の基礎がつけられた。11世紀セルジューク朝期にその中心として繁栄した。12世紀に入ってセルジューク朝が衰えてから16世紀サファビー朝が首都と定めるまで、争奪の対象となった。アッバス1世になって新都造営が旧都に付属して行われ、大メイダンと王のモスクなど現在の中心核が構成された。新市街と旧市街を繋ぐ形で大バザール空間が発達し、17世紀に繁栄は頂点を迎えたが、サファビー朝が滅びて後急速に衰え中心はテヘラン、タブリーズへ移った。</p>
 <p>6.73</p>		<p>文献 2) 文献 6) 文献 1 1)</p>	<p>イラン北東部ホラーサーン州の州都。テヘランに次ぎ、イスファハン、タブリーズ、シラーズと並ぶ主要都市。マシュハドの名は殉教地の意味で、イマーム・レザーが殉教した事からついた。15世紀にこの地の中心都市となった。16世紀サファビー朝がシア派を国教とした事からマシュハドの重要性が高まり、モスク・神学校・図書館などが建設され、数多くの思想家・神学者が輩出した。今日に至るまで、コムと並ぶシア派神学の中心地である。</p>
 <p>0.47</p>	 <p>1. カスバ 2. スーク 3. グランドモスク 4. モスク 5. ベデステン 6. 城門</p>	<p>文献 2) 文献 6) 文献 1 1)</p>	<p>アルジェリア民主人民共和国の首都。古代にはイコシムと呼ばれるフェニキア人の植民都市であった。10世紀頃からその重要性が増してゆきグラナーダ王国陥落の後アンダルシア人が移住してきた。16世紀スペイン人がベニヨン要塞を築く。16世紀にはオスマン帝国の支配となり19世紀初頭まで続く。1830年フランス軍がアルジェを占領。カスバを破壊して町を拡張した。19から20世紀にかけてのフランス植民地時代に旧市街と新市街の領域区分が定着した。</p>

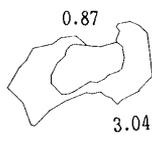
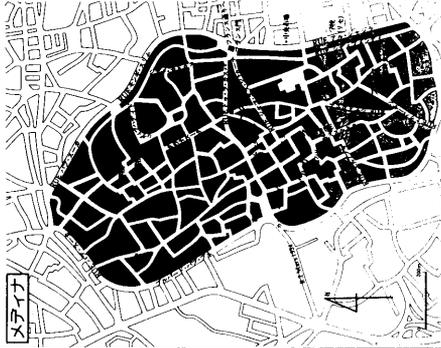
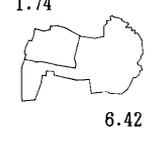
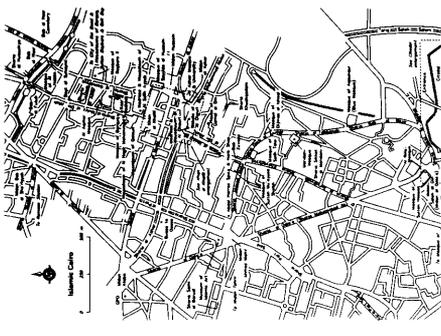
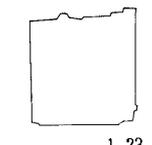
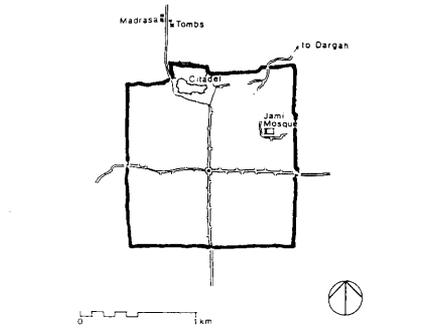
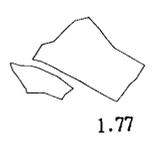
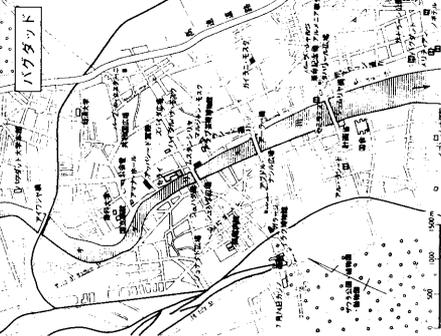
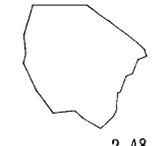
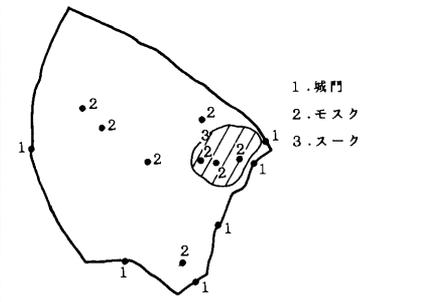
イスラム都市・集落リスト

CODE	国・地域・都市	都市形態図(旧市街) (西暦年代)	現在の都市における位置を示す図
ALG-3	<p>国: ALGERIA</p> <p>地域: アルジェリア内陸, ムザブの谷</p> <p>都市(集落): GHARDAIA (ガルダイア)</p> <p>気候風土: 砂漠または乾燥気候</p>	 <p>(1953)</p>	 <p>Ghardaia & Beni Isguen</p> <p>MELIKA</p> <p>BENI ISGUEN</p> <p>1 Green Mosque 2 Mosque 3 Restaurants, Cafes, Soufflers & Cams 4 Hotel Carrefour 5 Hotel Hapti 6 Hotel Alimoud 7 Hammam 8 Tannery Quargia 9 Hotel Izrane</p>
ALG-5	<p>国: ALGERIA</p> <p>地域: アルジェリア内陸部, ムザブの谷</p> <p>都市(集落): BENI ISGUEN (ベニスゲン)</p> <p>気候風土: 砂漠または乾燥気候</p>	 <p>(1953)</p>	 <p>BENI ISGUEN</p>
TUN-1	<p>国: TUNISIA</p> <p>地域: チュニジア中部 地中海沿岸地域</p> <p>都市(集落): SFAX (スファックス)</p> <p>気候風土: 草原または半乾燥気候帯</p>	 <p>(1911)</p>	 <p>スファックス</p>
TUN-2	<p>国: TUNISIA</p> <p>地域: チュニジア中部 地中海沿岸地域</p> <p>都市(集落): SOUSSE (スース)</p> <p>気候風土: 草原または半乾燥気候帯</p>	 <p>(1911)</p>	 <p>スース</p>
TUN-3	<p>国: TUNISIA</p> <p>地域: チュニジア中部 内陸地域</p> <p>都市(集落): KAIROUAN (カイラワン)</p> <p>気候風土: 草原または半乾燥気候</p>	 <p>(1911)</p>	 <p>クエアーン</p>

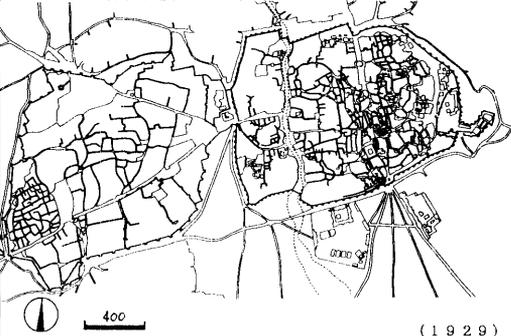
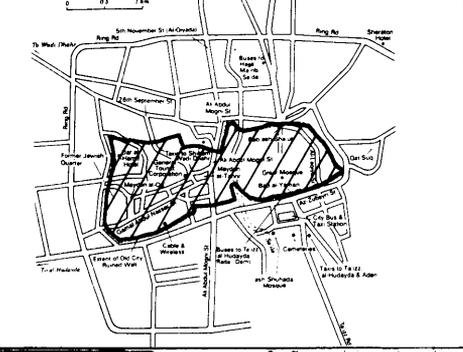
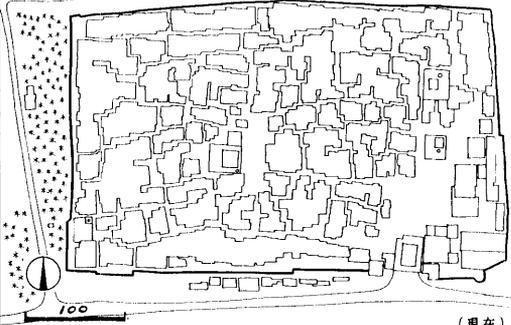
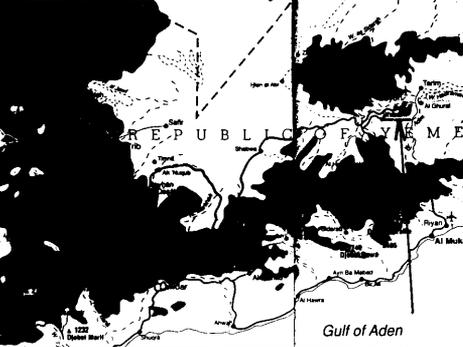
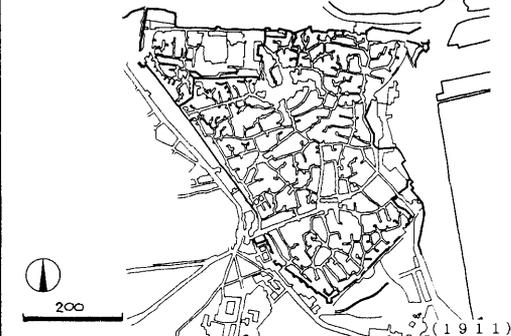
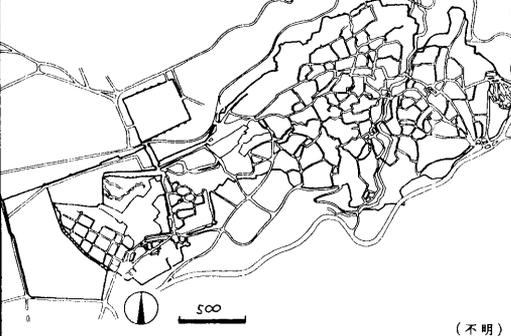
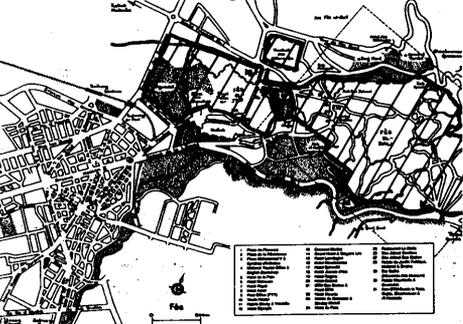
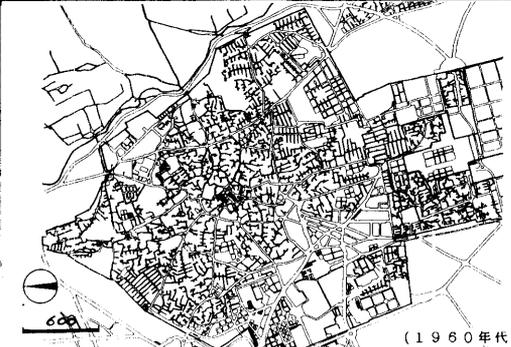
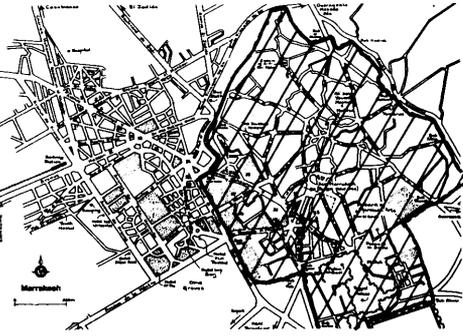
旧市街規模	主要構成要素配列図(旧市街部)	文献	備考
<p>単位: 平方キロメートル</p>  <p>0.30</p>	 <p>1. モスク 2. マーケット広場</p>	<p>文献 2) 文献 6) 文献 1 1) 文献 3 8)</p>	<p>サハラ北辺に成立したオアシス都市は歴史上アフリカ内陸部と地中海沿岸世界を結ぶ交通の要衝として重要な位置を占めていた。北サハラのベルベルに対するイスラム化はキャラバンを率いるアラブ商人によってなされる一方、ターハルトを首都とするルスタム朝のハワーリジュ派の一派イバード派が貢献した。この一派が、シーア派のファーティマ朝に駆逐されたのち11世紀中頃ムザッブの谷に定着して当地の基礎をつくった。5つの都市を形成したがその内の最大のものがガルダイアである。</p>
 <p>0.14</p>	 <p>1. モスク 2. マーケット広場 3. 入り口城門</p>	<p>文献 2) 文献 6) 文献 1 1) 文献 3 8)</p>	<p>ムザッブの谷に11世紀頃定着したイバード派イスラムの造った5つの町の1つ。5つの町の中で最も宗教的に厳しい戒律を設けている町である。その1つが、結婚は町の中の同士で必ず行われている。町の東端の最高位にモスクのミナレットが建つ。城壁の保存状態は5つの町の中で最も良い。</p>
 <p>0.24</p>	 <p>13 Hamman Sultan</p>	<p>文献 2) 文献 1 1) 文献 3 9)</p>	<p>チュニジア第2の都市。商工業の中心都市。フェニキア時代にその起源を持ち、1148年にシチリアに占領されるが、1159年アラブのアルモハド朝に返還された。1881年反フランス運動の拠点となる。現在のカスバアラビックスールはフランスの攻撃に対して建設された。新市街と旧市街が明確に分かれているが、新市街は1881年に建設された。</p>
 <p>0.31</p>	 <p>1 Restaurant le Membre 2 Restaurant de la Jeunesse 3 Hotel 4 Carriage Hotel 5 Tourist Office 6 Restaurant La Bourne 7 Hotel Pasha 8 Synagogue d'initiative 9 Bureau de Monnaie et de Change 10 Place Farnel Hached 11 Hotel Atlas 12 Hotel 13 Restaurant Populaire 14 Great Mosque 15 Hotel Sousse 16 Hotel Sousse 17 Hotel Sousse 18 Hotel Sousse 19 Hotel Sousse 20 Restaurant Medina 21 Restaurant Hachem 22 Museum 23 Hotel Sousse 24 SUTS Office 25 Lounge & Bus Station 26 Train to Marsax</p>	<p>文献 2) 文献 1 1) 文献 3 9)</p>	<p>チュニジア第3の都市。カルタゴと同じで、フェニキアの植民都市として建設された歴史を持つ。建設当時はハドゥメトウスと呼ばれた。要塞リバトの外側にハシェド広場があり、新市街と旧市街が隣接している。北側の新市街はリゾートタウンであるが、南側の旧市街は、漁港を中心として、城壁で囲われたメディナが延びている。</p>
 <p>0.38</p>	 <p>1 Hospital 2 Hotel Al Mansura 3 Hotel 4 Bath Turin & Lougou 5 Hotel 6 Museum 7 Souk 8 Souk 9 Souk 10 Souk 11 Souk 12 Souk 13 Souk 14 Souk 15 Souk</p>	<p>文献 2) 文献 1 1) 文献 3 9)</p>	<p>チュニジア中部内陸の都市。670年ウマイヤ朝のイフリーキヤ総督に命じられて、ウクバがローマ、ビザンチン時代に存在した町の跡に建設したのが起源。当初は、全アラブ征服軍の軍営都市として計画されたが、アッバース朝から独立してアグラブ朝の都として9世紀に最盛期を迎える。この時代マシュリクとマグリブをむすぶ国際交易ネットワークの結節点であった。その後ファーティマ朝、ズィール朝を通じて首都として栄えるが、1057年ベドウィンの侵入を受けて首都がチュニスに移った。多くのモスクを抱え、マグリブの聖都として位置づけられる。</p>

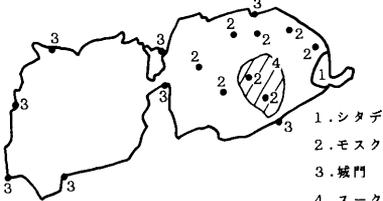
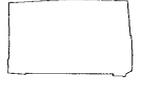
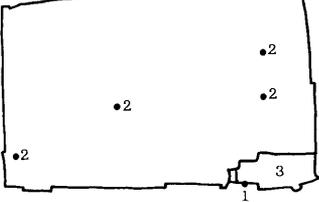
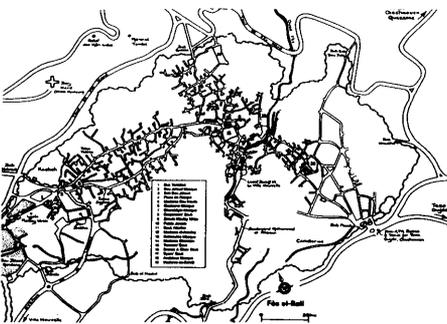
イスラム都市・集落リスト

CODE	国・地域・都市	都市形態図(旧市街) (西暦年代)	現在の都市における位置を示す図
TUN-4	<p>国: TUNISIA</p> <p>地域: チュニジア北部</p> <p>都市(集落): TUNIS (チュニス)</p> <p>気候風土: 地中海気候 または亜熱帯多雨気候</p>	 <p>(1860年代)</p>	
EGY-1	<p>国: EGYPT</p> <p>地域: エジプト北部 ナイル河口地域</p> <p>都市(集落): CAIRO (カイロ)</p> <p>気候風土: 砂漠または 乾燥気候</p>	 <p>(20世紀初頭)</p>	
AFG-1	<p>国: AFGHAN ISTAN</p> <p>地域: アフガニスタン 西北部ヘラート川沿</p> <p>都市(集落): HERAT (ヘラート)</p> <p>気候風土: 草原または 半乾燥気候</p>	 <p>(不明)</p>	
IRQ-1	<p>国: IRAQ</p> <p>地域: イラク中央部 ティグリス川沿岸</p> <p>都市(集落): BAGDAD (バグダッド)</p> <p>気候風土: 草原または 半乾燥気候</p>	 <p>(19世紀中頃)</p>	 <p>BAGHDAD Medieval and Modern</p> <p>Scale of Engl. Miles</p>
IRQ-2	<p>国: IRAQ</p> <p>地域: イラク北部</p> <p>都市(集落): MOSUL (モスール)</p> <p>気候風土: 砂漠または 乾燥気候</p>	 <p>(不明)</p>	 <p>モスール/ニネベ</p>

旧市街規模	主要構成要素配列図(旧市街部)	文献	備考
<p>単位平方102→5</p> 		<p>文献 1) 文献 2) 文献 6) 文献 8) 文献 1 1) 文献 3 9)</p>	<p>チュニジア共和国の首都。フェニキア植民都市が起源。紀元前4世紀頃チュニスの名が現れる。698年カルタゴがアラブに滅ぼされてからイスラム化。878年カイラワーンがシチリアに征服された後、地中海交易の中継地として重要性は増した。11、12世紀とイタリア諸都市の侵入を受け、メディナが拡張された。1149年ムワヒド朝モロッコに征服されて西側の丘陵にカスバを建設。1236年ベルベル系ハフス朝の首都となり、現在の旧市街の原型が出来る。1574年オスマン朝の支配となる。フランス保護領時代以降新市街が発展し、チュニジアの経済の中心となった。</p>
<p>1.74</p> 		<p>文献 1) 文献 2) 文献 6) 文献 1 1) 文献 2 1) 文献 3 6) 文献 4 2)</p>	<p>エジプト・アラブ共和国の首都。アフリカ大陸最大の都市。969年ファティマ朝により建設。カーヒラ(勝利する都市)による。アフリカを統一したファティマ朝がバグダッドを拠点とするアッバース朝に對抗して本拠地をカイロに定めたのが始め。13世紀モンゴル軍によってバグダッドが破壊されると、アラブ・イスラムの首都としての位置を得た。アイユーブ朝マムルーク朝と首都として栄えた。現在アラブ民族の文化・政治の中心にある。ファティマ朝期の方形の形態と、その後拡張された南東部分、さらにナイルとの間に出来た新市街としての現在の中心地域によって全体が構成される。</p>
<p>1.23</p> 		<p>文献 1) 文献 2) 文献 6) 文献 1 1)</p>	<p>アフガニスタン西北部の都市。ハリー・ルード流域の大オアシスに立地。歴史的にはイラン文化圏に属し、イラン系民族が住民の主要部を構成。紀元前4世紀アレクサンダー大王がここにアレクサンドリアを建設したのが起源。ササン朝下では、エフタルの境界地域に位置し重要な軍事拠点であった。625年ホラサーン征服後イスラム世界に組み込まれた。12世紀ゴール朝期に発展したが、1221年モンゴルに占領破壊されその後クルト朝の首都として再建。14世紀ティムール朝の首都として繁栄した。16世紀以降各種紛争の舞台となり衰退。現在西アフガニスタンの経済の中心である。</p>
<p>1.77</p> 		<p>文献 1) 文献 2) 文献 6) 文献 1 1) 文献 1 2) 文献 2 1) 文献 3 6) 文献 4 3)</p>	<p>イラク共和国の首都。古代メソポタミア時代から居住。バグダッドの建設はアッバース朝カリフ・マンスールによって行われた。8世紀から10世紀にかけてビザンチン帝国、インド、中国との交易路の経路地として繁栄。建設当初はティグリス川西岸の円城であったが、以降東岸に主要部を移し現在の基礎が出来た。12世紀半ばから政治的混乱等で衰退しアラブイスラムの中心はエジプトに移ってゆく。13世紀以降モンゴルティムールの侵入を受け、地方都市にすぎなくなった。1921年イラク王国の首都、1959年共和国の首都として再開発、再発展がなされた。</p>
<p>2.48</p> 		<p>文献 1) 文献 2) 文献 1 1) 文献 4 3)</p>	<p>北部メソポタミアの都市。イラク3番目の大都市。モスリンの語源はモスールからきている。紀元前2000年から紀元前612年までに栄えたアッリア諸都市が起源。モスールが栄えたのは、イスラム時代以降。ティグリス川の航路、川沿いの道イラン高原からシリアへゆく道が交わる場所に位置し、交通の要衝として栄えた。</p>

イスラム都市・集落リスト

CODE	国・地域・都市	都市形態図(旧市街) (西暦年代)	現在の都市における位置を示す図
YMR-1	<p>国: YEMEN</p> <p>地域: イムン中央高地帯</p> <p>都市(集落): SANA'A (サヌア)</p> <p>気候風土: 草原または半乾燥気候</p>	 <p>(1929)</p>	
YMR-2	<p>国: YEMEN</p> <p>地域: イムンハドラモート地域</p> <p>都市(集落): SHIBAM (シバーム)</p> <p>気候風土: 砂漠または乾燥気候</p>	 <p>(現在)</p>	
MAR-1	<p>国: MOROCCO</p> <p>地域: モロッコ北部</p> <p>都市(集落): TANGER (タンジール)</p> <p>気候風土: 地中海気候または亜熱帯多雨気候</p>	 <p>(1911)</p>	
MAR-2	<p>国: MOROCCO</p> <p>地域: モロッコ北部</p> <p>都市(集落): FES (フェス)</p> <p>気候風土: 地中海気候または亜熱帯多雨気候</p>	 <p>(不明)</p>	
MAR-3	<p>国: MOROCCO</p> <p>地域: 大アトラス山脈の麓。モロッコ中南部</p> <p>都市(集落): MARRAKECH (マラケシュ)</p> <p>気候風土: 熱帯サバンナ気候。標高500m 平均気温19度 年降水量250mm</p>	 <p>(1960年代)</p>	

旧市街規模	主要構成要素配列図(旧市街部)	文献	備考
<p>単位平方キロメートル</p>  <p>1.49 1.42</p>	 <p>1. シタデル 2. モスク 3. 城門 4. スーク</p>	<p>文献 2) 文献 1 1) 文献 1 3) 文献 1 9) 文献 2 0)</p>	<p>イエメン共和国の首都。1960年代まではほとんど鎖国状態であった。そのため、原アラブ中世イスラム都市の面影を残している。東部サラート山脈の緩やかな山麓平地に展開した都市。サヌア(要塞都市の意味)の名が登場するのは525年エチオピア軍のイエメン占領以降である。イスラム到達以前にガムダン宮殿という20階建ての石造の王宮とアルガリスというキリスト教の教会があった。イスラム化後解体されグレートモスクが建設された。サヌアの歴史は王朝、宗派、部族の攻撃と占領と略奪の歴史であった。そのためか、1962年の革命前まで市壁で囲われていた。</p>
 <p>0.12</p>	 <p>1. 城門 2. モスク 3. シタデル</p>	<p>文献 1 3) 文献 1 9)</p>	<p>旧南イエメン、ハドラモート地方の都市。最もアラブ・イスラムの伝統的スタイルを保存している都市の1つ。3世紀頃から16世紀までハドラモート地方の首都としてあった。5階から8階建ての高層住居が500余りあり、城壁で囲われた都市で、砂漠の摩天楼と呼ばれている。1532年から33年にかけての洪水で部分的に破壊された。その後回かの洪水に見舞われた。現在ユネスコが保存活動をしている。</p>
 <p>0.21</p>		<p>文献 2) 文献 1 5) 文献 3 4)</p>	<p>モロッコへの導入となる港の町である。タンジールは、ジブラルタルを握るための要衝として1000年の間係争の対象となった。古代には、ギリシャやフェニキアが貿易港として都市を造っていた。以降、1~5世紀にローマ帝国、5世紀はビザンチン帝国、6世紀にはビザンチン帝国が、8世紀にアラブ、8世紀ベルベル、10世紀ファティマ朝等を経て15、6世紀にポルトガル、16世紀スペインが、17世紀にはイギリスそして19世紀にフランスとなっている。メディナと新市街の間にグランソッコと呼ばれる中心広場がある。カスバは旧市街の北西部を占める。</p>
 <p>3.98</p>		<p>文献 2) 文献 1 5) 文献 3 4)</p>	<p>モロッコ王国の旧王都。東西と南北に交易路が交錯する地に立地する。809年イドリース2世が都市の基礎をつくったといわれる。ムラービト朝期には川をはさむ2つの町が合併されマリーン朝期に飛躍的發展をした。織物、皮革の商工業が発展し、学問・文化の中心となった。17~18世紀アラウィー朝で繁栄。旧市街は最も古い城壁で囲われたメディナでフェス・アルバリと呼ばれる地区と、13世紀にマリーン朝の首都として建設したフェス・アルジャディードと呼ばれる部分に分かれる。その外側にフランス植民地時代に新市街として計画され現在も拡張している部分がある。</p>
 <p>6.31</p>		<p>文献 2) 文献 1 5) 文献 3 4)</p>	<p>モロッコ中南部の中心都市。サハラ方面と北部モロッコをつなぐ中継交易地として栄えた町。1070年ムラービト朝の都として建設された。ムワッヒド朝の都ともなる。17世紀アラウィー朝のイスマーイールによって町は破壊された。18世紀に復興され、フェス、メクネス、ラバトと並ぶ王都となった。フランス保護領時代は軍事的拠点として近代化が進んだ。旧市街には町を守護する七聖者の廟をはじめ、神秘主義教壇等多くの民衆宗教の拠点を抱えている。</p>

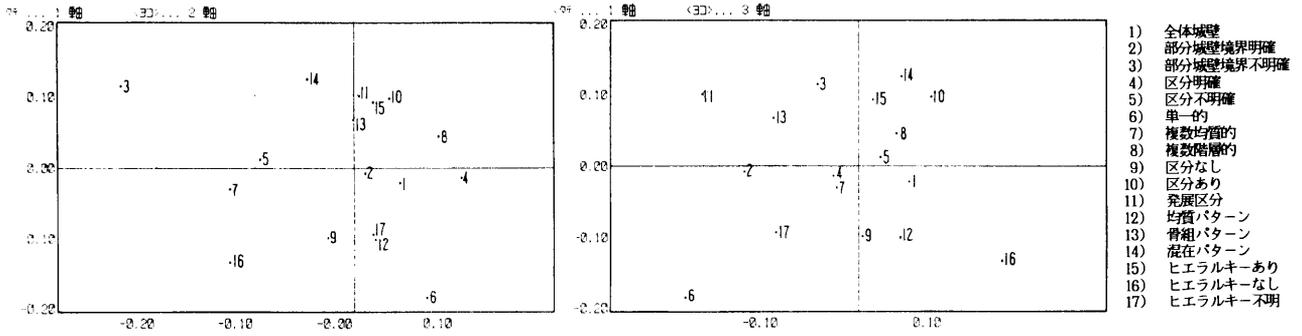


図 4-1 カテゴリースコア 2次元グラフ

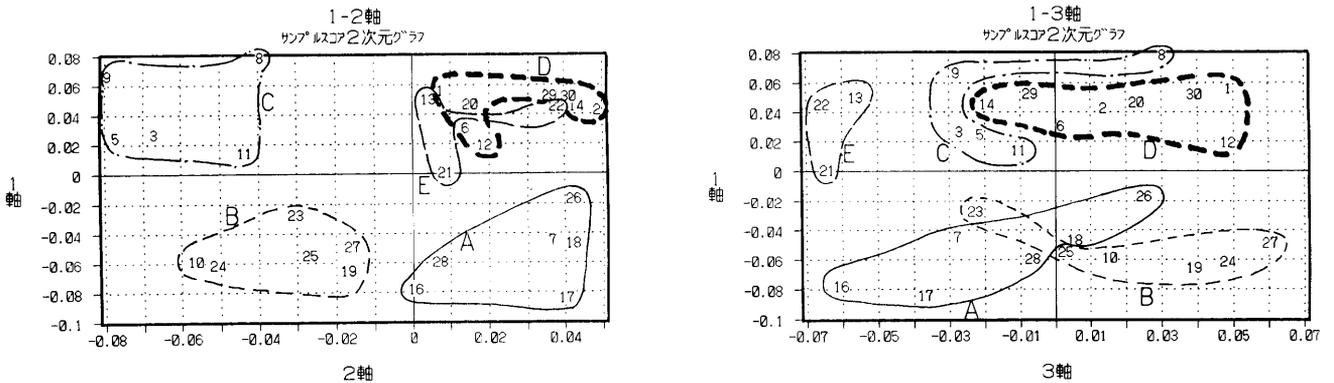


図 4-2 サンプルスコア 2次元グラフ

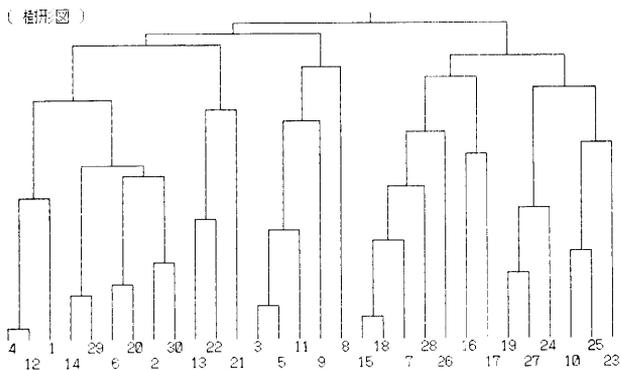


図 4-3 クラスタ分析結果

4.2 数量化Ⅲ類による類型化の試み

表 4-1 をもとに、林式数量化Ⅲ類を適用して30都市の類型化を行ってみた結果を以下に示してゆく。

表 4-2 林式数量化Ⅲ類結果固有値表

	1 軸	2 軸	3 軸
固有値	0.4453	0.2790	0.2341
寄与率	24.3(%)	15.2(%)	12.8(%)
累積%	24.3(%)	39.5(%)	52.3(%)

図 4-1 から、1, 2, 3 軸の意味特性を読み取ると以下のようになる。

- 1 軸：階層的であるかー均質的であるかの軸
- 2 軸：曖昧か明快かの軸
- 3 軸：単純か複合的かの軸

これをそれぞれ、階層性の軸、曖昧度の軸、複合性の

軸として、整理をしてゆく。図 4-2 にサンプルスコアをもとに 2 次元グラフを描いたものである。

また、同サンプルスコアをもとにクラスター分析を行い 5 クラスターへ区分したものが図 4-3 に示される。図 4-2, 4-3 を合わせたとき 30 都市の対象は 5 つのグループに分けられる事が示される。

4.3 類型化への方向

4.2 の結果より 5 つのグループに分けられたものの特性を示すと以下ようになる。

A グループ：単純明快な構成を持ち全体に均質な都市空間を有するグループ

ガルダイア・ベニスゲン・スファックス等

B グループ：複合的な全体像を持ちながら若干混合し曖昧な部分を有し、空間は均質なグループ

シバーム・バグダッド・スース・モスール等

C グループ：空間に階層性があり、全体として混合した部分を有するグループ

ケルマン・カイセリ・シバス・エディルネ等

D グループ：空間に階層性があり、明快なまとまりを持っているが複合化した部分も持つグループ

アレppo・ダマスクス・マラケシュ・フェス等

E グループ：単純な構造で階層的空間構成を有ししかも明快な構造を持つグループ

イスファハン・カイロ・チュニス等

以上の類型化に当たって、重要な要素となった事項は

空間の階層性・均質性, 単純性・複合性, 曖昧・明快の3つの軸であった事は今後のイスラム都市・集落の特性把握に重要な事項となろう。

5. 結 語

乾燥地帯に広がるイスラム都市・集落の特性を30都市という限定した対象で論じた事に問題があるが, 今後それぞれの対象について, 詳細な把握をしてゆきながら全体像への到達を目標としてゆきたい。

<注>

- 1) 世界地名事典, 東京堂出版より
- 2) 図2-1, 2, 4 イスラム事典平凡社, 2-3はイスラム世界の発展: 本田實信, 講談社による
- 3) 気候区分は Köppen によるものを, 図版は Rand McNally the New Cosmopolitan World Atlas を参照した
- 4) 図2-3はオスマン帝国の最大版図について, 図2-4はイスラム諸国会議参加国(1984)及びイスラム教徒の存在が社会的に大きな意味を持つ地域

<参考文献>

- 1) 日本イスラム協会監修: イスラム事典, 平凡社, 1982
- 2) 板垣雄三, 後藤明編: 事典イスラムの都市性, 亜紀書房, 1992
- 3) 第5回大学と科学公開シンポジウム組織委員会編: 都市文明イスラームの世界, クバクロ, 1991
- 4) イスラムの都市性事務局編: イスラムの都市性全体集會報告書, 第三書館, 1991
- 5) 羽田正著: モスクが語るイスラム史 中公新書 1994
- 6) 木島安史代表: イスラーム都市解析作業科学研究費重点領域研究報告書, 課題番号63625015, 1988年課題番号01625016 1989
- 7) ROSS BURNS: MONUMENTS OF SYRIA, I.B. TAURIS & CO LTD, 1992
- 8) JELLAL ABDELKAFI: LA MEDINA DE TUNIS, PRESSES DU CNRS, 1989
- 9) DAMIEN SIMONIS & HUGH FINLAY: JORDAN & SYRIA, LONELY PLANET, 1993
- 10) TOM BROSNAN, TURKEY, LONELY PLANET, 1989
- 11) TOM BROSNAN & DAVID ST VINCENT & OTHERS: MIDDLE EAST, LONELY PLANET, 1994
- 12) SCOTT WAYNE: EGYPT, LONELY PLANET, 1990
- 13) PARTTI HAMALAINEN: YEMEN, LONELY PLANET, 1991
- 14) GORDON ROBISON: ARAB GULF STATES, LONELY PLANET, 1993
- 15) GEOFF CROWTHER & HUGH FINLAY: MOROCCO ALGERIA & TUNISIA, LONELY PLANET, 1992
- 16) AKINOBU TERASAKI: GEOGRAPHICAL VIEWS IN THE MIDDLE EASTERN CITIES I TURKEY, KIRIHARA SHOTENN, 1989
- 17) AKINOBU TERASAKI & MASANORI NAITO: GEOGRAPHICAL VIEWS IN THE MIDDLE EASTERN CITIES II SYRIA, KIRIHARA SHOTENN, 1990
- 18) PASCAL MARECHAUX: SANAA: PARCOURS D'UNE CITE D'ARABIE, INSTITUTE DU MONDE ARABE, 1987

- 19) PASCAL MARECHAUX: YEMEN, PHEBUS, 1993
- 20) FERNANDO VARANDA, ART OF BUILDING IN YEMEN, THE MIT PRESS, 1982
- 21) 前嶋信次: 生活の世界歴史7 イスラムの蔭に, 河出書房新社, 1975
- 22) 羽田正 三浦徹編: イスラム都市研究, 東京大学出版会, 1991
- 23) 屋形禎亮 佐藤次高: 西アジア上(地域からの世界史7), 毎日新聞社, 1993
- 24) 永田雄三 加藤博: 西アジア下(地域からの世界史8), 毎日新聞社, 1993
- 25) R. ケレシュ 加納弘勝: トルコの都市と社会意識, アジア経済研究所, 1990
- 26) 加納弘勝編: 中東の民衆と社会意識, アジア経済研究所, 1991
- 27) 片倉もとこ: イスラームの日常世界, 岩波新書, 1991
- 28) 大島直政: イスラムからの発想, 講談社現代新書, 1981
- 29) 清水芳見: アラブム・スリムの日常生活, 講談社現代新書, 1992
- 30) 陣内秀信: 新井勇治ほか4名, ダマスカスの文化学, 季刊 IICHIKO, 1993
- 31) 石井昭: 特集オアシス都市の生態, 建築文化 1968.11
- 32) ベシーム・S・ハキーム: イスラム都市, 第三書館, 1990
- 33) 本田実信: イスラム世界の発展, 講談社, 1985
- 34) 地球の歩き方11, モロッコ, ダイアモンド社, 1992
- 35) 地球の歩き方21, イスタンブールとトルコの大地, ダイアモンド社, 1990
- 36) 地球の歩き方22, エジプト, ダイアモンド社, 1993
- 37) 地球の歩き方103, シリア・ヨルダン, ダイアモンド社, 1992
- 38) 地球の歩き方104, サハラ・アルジェリア, ダイアモンド社, 1990
- 39) 地球の歩き方105, チュニジア, ダイアモンド社, 1990
- 40) プロセスアーキテクチュア27, 空間と伝統: トルコの建築
- 41) プロセスアーキテクチュア93, トルコ都市巡礼
- 42) 19世紀欧米都市地図集成第II集, 柏書房, 1993
- 43) 中近東・エジプト・パキスタン, JTB, 1983
- 44) 矢島文夫編: アフロアジアの民族と文化(民族の世界史11), 山川出版, 1985

<研究組織>

- | | | |
|----|-------|-----------------------|
| 主査 | 芦川 智 | 昭和女子大学生生活科学部教授 |
| 委員 | 藤井 明 | 東京大学生産技術研究所第五部
助教授 |
| | 金尾 朗 | 昭和女子大学生生活科学部講師 |
| | 芦川 紀子 | 日本大学芸術学部講師 |
| | 金子 友美 | 昭和女子大学生生活科学部助手 |